

国際業務の 窓辺から

CLAIR 経験者からの
メッセージ



ある公務員、世の中の広さを知る

福井市商工労働部観光文化局おもてなし観光推進課 副主幹 澤田 充

全てが未知

「国際交流にインバウンド。知ってる。大切らしいね。」その程度でしかなかった私の認識が、クレアでの活動を終えた今、大きく変化していることを感じています。

何よりの財産となったのは、全国の自治体職員や優秀な外国人スタッフとの素晴らしい出会いがあったことです。複数の言語を操る知性、様々な文化・思想に理解を示す寛容さ、成果と効率の両立を追求する姿勢など、彼らのマルチな才能や価値観に触れたことは、それまで国際業務の経験すら無かった私にとって大きな刺激となりました。

赴任先となったパリ事務所では、Japan Expo などのイベントへの参加を通じ、日本の魅力をフランス人へ直接 PR する機会にも恵まれ、彼らの日本に対する関心の高さを肌で感じることができました。一方、そんな親日派の中でさえ、我が「福井」の存在を知っていたのはわずかに数人。来訪経験者に至っては南仏マルセイユで出会ったマダムお一人のみと、厳しい現実には肩を落とすこともありました。しかし、彼らの思想や嗜好に触れ、言葉を交わすことで得られた発見は、2024 年春の北陸新幹線福井延伸を見据えたインバウンド施策の展開に大きなヒントを与えてくれるものと期待しています。

フランス自治体政策の調査業務を通じては、日仏地方自治制度の違いはもとより、移民政策や環境問題への意識の高さ、行政手続のデジタル化の進展など、現地だからこそ感じるものが多数ありました。クレアの強みを活かし、政府の重役や市長などの政策責任者から直接話を伺う経験ができたことにも感謝しています。また、折からのコロナ禍でその対策に奔走するフランス行政の姿を目の当たりにすることにもなりましたが、個人の自由への制限を伴う対策でさえも迅速かつ柔軟に打ち出して

いく彼らの姿勢には、頼もしさを感じることもすらありました。

日本のあり方だけが全てではない。そんな当たり前の事実を認識する契機となり、この貴重な体験を今後の施策推進に活かしていきたいと考えているところです。



コロナ禍でのフランス自治体政策調査の様子

縁をつなぐ

帰国後は国内観光推進部局への配属となったことや、コロナ禍、財政緊縮を理由とする国際交流事業縮小の動きもあり、フランスとの縁が薄れていくことに寂しさを感じていましたが、この春には一転、嬉しい知らせが舞い込んできました。クレアでの経験を活かし、パリにある福井ゆかりの飲食店を活用して行われる福井 PR 事業に従事できることとなったのです。再びフランスと関わりが持てることに感謝し、この活動がより大きな縁につながるよう努力したいと思います。

プロフィール・ほか

- 現所属：福井市商工労働部観光文化局おもてなし観光推進課
- クレア在籍から現所属まで：
 - 2018年4月～2019年3月 JET 部研修・カウンセリング課
 - 2019年4月～2021年3月 パリ事務所
 - 2021年4月～ 現所属